

目標: 「ユダヤ人の王」に込められた意味の不思議さに触れ、イエス様に従う歩みとはどうあるべきか考える。  
 聖句: 「これはユダヤ人の王」と書いた札もイエスの頭上に掲げてあった。ルカ23:38」  
 時間: 10分  
 道具: ホワイトボード、ペン、  
 対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5  
 留意点: 前週子供たちは大人と一緒にの礼拝で、シメオンの話を聞いている。箇所が被るということで注意が散漫にならないよう配慮が必要である。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	<p>イエス様はピラトの裁判ののち、十字架につけられるために、十字架を背負ってヴィア・ドロローサと呼ばれるようになった道を歩きました。そこで登場したのがシメオンでした。シメオンのお話を覚えていますか。どんなことがあったのですか。</p> <p>イエス様は、疲れ果てながらとぼとぼと歩くその後を、シメオンが十字架を背負ってついていきました。他に二人の犯罪人も一緒に十字架を背負って歩きました。されこうべ(ゴルゴタ)の丘と呼ばれるところで、イエス様は犯罪人の間で十字架にかけられました。イエス様の十字架には罪状書がつけられました。何と書いてあったか知っていますか。</p> <p>ユダヤ人の王とはどういう意味なのでしょう。</p> <p>ユダヤ人の先祖のアブラハムに、神様は、あなたの子孫から全世界の人を救う方が出ると約束されました。王とは、国の代表という意味です。ユダヤ人の王とは、ユダヤ人の代表という意味で、イエスさまこそ救い主であるという意味になります。罪状書は、この人はこういう理由だから、十字架にかけられたのだと説明する書付です。するとイエス様は、ユダヤ人の王だから、十字架にかけられているということになります。十字架は私たちの救いです。私たちのため、イエス様は十字架にかけられ続けて下さっているのです。</p>	<p>子供に予想される反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えている</li> <li>・忘れた。</li> </ul>	<p>本時の聖書箇所の概略を掴む。</p> <p>内容も問う。前時の確認と、前回とのつながりを意図した問いである。これにより、前回の話の定着度合いを測り、また先週から流れが続いていることを確認させたい。28～30節のやり取りは子供たちには難しいと思われるので、触れない。情景を思い浮かべさせるために、この説明をしっかりと行う。</p>
課題探究	6分	<p>ユダヤ人の王とはどういう意味なのでしょう。</p> <p>ユダヤ人の先祖のアブラハムに、神様は、あなたの子孫から全世界の人を救う方が出ると約束されました。王とは、国の代表という意味です。ユダヤ人の王とは、ユダヤ人の代表という意味で、イエスさまこそ救い主であるという意味になります。罪状書は、この人はこういう理由だから、十字架にかけられたのだと説明する書付です。するとイエス様は、ユダヤ人の王だから、十字架にかけられているということになります。十字架は私たちの救いです。私たちのため、イエス様は十字架にかけられ続けて下さっているのです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている。</li> <li>・知らない</li> <li>・ユダヤ人の王</li> <li>・ユダヤ人の王様</li> <li>・ユダヤ人の代表</li> <li>・ユダヤ人の中で一番偉い人</li> </ul>	<p>答えが出なければ、教師側で提示する。</p> <p>これはなかなか答えが出ないと思われる。できるだけ考えさせることができればよしとする。</p> <p>ダビデ王も全世界の王ではなかったことを添えると、よりユダヤ人の王としてのイエス様がイメージしやすくなるだろう。このことは提示でいいだろう。</p>
まとめ	2分	<p>イエス様に従う私たちは、では、どのように歩むべきでしょうか。どうすることがイエス様を信頼して従うことか、一人一人考えてほしいと思います。</p> <p>暗誦聖句</p>		<p>ユダヤ人の王のあるべき姿が十字架だと表現すると、印象深くなるだろう。余韻を残すため、あえてこの言及で抑えたい。</p> <p>184号テキスト全体のテーマからの反映として、この問いかけを受け取らせたい。</p>